



Sponsor a Child

クリスチャンパートナーズ

通信第 95 号

-
- 発行日 / 2015 年 9 月 15 日
 - 事務局 / 〒422-8053 静岡市駿河区西中原
2-7-63-111 竹澤三佳子方
 - 郵便振替口座 / 00150-0-134994
 - 発行所 / クリスチャンパートナーズ
 - Tel / Fax 054-283-1721
 - e-mail / sunflower818@hw.tnc.ne.jp
 - http://www2.wbs.ne.jp/~c-p/
-

創立三十周年を祝って

理事長 木ノ内 一雄

クリスチャンパートナーズ (Partners International Japan) を設立して今年で 30 年になります。その契機は 1984 年にアメリカ (PI USA) の代表アレン・フィンリー師夫妻が来日され、歓迎会に関係者が集まり日本での活動について話し合ったことにあります。その結果、シンガポール事務所を通しインドネシアの西カリマンタン、ポンティアナク地域の児童の学費援助を行うことになりました。



創立三十周年記念会 高橋伝道師の現地援助活動報告

1985 年春、当時勤務していた会社のシンガポール出張の折、足を延ばして現地に立寄りました。湿地帯にあるスラムで、内陸から避難して来た中国系の人たちが木で道を作り、バラックを建てて住んでいました。幼い子を水路で洗っていましたが、体を汚しているのしか見えませんでした。その光景は、わたしにとってこの活動を続ける原点になりました。

2006 年、創立時から理事長を務めてこられた草野計雄氏に代わり、わたしがその任を受け継ぐことになりました。その後、数年間、各国の代表が集まる P I 評議会に出席して来ましたが、経費面での出費もかさむためここ数年欠席を余儀なくされるようになりました。わたしたちの活動は児童への学費援助だけで他国との調整は特に必要なかったことにもよります。しかしながら評議会欠席は運営に支障があると指摘され、前回理事会で話し合った結果、評議員は辞任し、英語名を日本名と同じ Christian Partners に変えました。また、西カリマンタンの児童学費援助 (SAC) は現状のまま継続し、アンテオケ宣教会の高橋めぐみ宣教師を通して行っている同州内の小、中、高校生及び大学生、ATI 神学校学生への学費援助にも力を入れていくことにしました。ガーナプロジェクトへの援助は PI セネガル事務所を通さずに送金や活動報告は直接連絡し合うことにしました。



高橋先生を現地に理事長訪問

今回、高橋宣教師を講師に迎えての創立三十周年の記念会は、私たちにとって図らずも新しいクリスチャンパートナーズの出発式ともなりました。これからも皆様の更なるご支援をよろしくお願い致します。

クリスチャン・パートナーズ30年の歩み

1984年11月 クリスチャン・パートナーズは、米国のキリスト者海外援助団体 CNEC（後にパートナーズ・インターナショナルと改称）の会長フィンリー牧師の勧めにより、故草野計雄（初代理事長）らによって設立された。最初の援助はインドネシア西カリマンタンでの里親支援 SAC（Sponsor-A-Child）プロジェクトで、里子は6名であった。西カリマンタンでの SAC プロジェクトはその後現在に至るまでパートナーズの援助活動の中核をなす。

1994年2月 国際組織パートナーズ・インターナショナルに正式に加盟した。パートナーズ・インターナショナルには米国、英国、カナダ、オーストラリア、シンガポールなどの組織が参加している。設立10周年を迎えたこの年 SAC の里子は46人となった。またパートナーズ・インターナショナルの要請に応じて、災害や紛争の被災者・難民に対する緊急援助の送金もおこなった。この年はボスニア紛争の難民への援助。

1995年7月 同労諸団体への援助開始。援助活動を行っているキリスト教諸団体への支援として、アンテオケ宣教会の安海靖郎牧師が設立を主導した西カリマンタンの ATI 神学校に献金。これが西カリマンタン奥地への援助への基礎となった。

1997年7月 インド、ミゾラム州の孤児の養護施設「ヘルモン子供の家」への援助開始。前年草野理事長が現地を視察したことから始まり、英語教師の給与支援などを行った。

1999年7月 西カリマンタン州ロバン村への医療援助開始。SAC の里子が集中して住むロバン村の劣悪な生活環境改善のための医療無料提供。12月までに160人受診。また SAC 終了後の上級学校への進学者にたいする奨学金制度も開始された。

2001年3月 アフリカ・コンゴ民主共和国ゴマ市の女子の学校に援助。長引く内戦で困窮の中にありながら障害を持つ子供たちのために苦闘するエフファタ聾学校に援助。翌年も引き続いて援助した。

2002年7月 アンテオケ宣教会に協力して西カリマンタン奥地の青少年への奨学支援を開始。現地のコーディネーターは高橋めぐみ宣教師。

2005年7月 設立20周年を迎えた2004年度末の SAC 里子数は63名。西カリマンタン奥地シンタンの中学生17名、大学生4名、ATI 神学生5名ほかに奨学金。キリスト教主義私立小学校の教師給与補助。

2005年6月 草野理事長退任。

2006年7月 木ノ内一雄牧師理事長に就任。

2006年9月 ガーナ支援プロジェクトの開始。日本でアジア学院に留学中に木ノ内理事長と知り合ったガーナ出身のエイモス・バンマリグ牧師が、帰国して始めた宣教と村民の生活改善運動を支援することになった。

2007年6月 インド、ミゾラム州の養護施設援助終了。

2010年1月 会員の特別献金により、シンガポールの同労団体を通して、ロバン村教会の土地取得と教会建設を援助。

2011年3月 東日本大震災発生。来日したパートナーズ・インターナショナルの代表と木ノ内理事長が現地を視察、日本のパートナーズが世界のパートナーズからの災害救援金の受け皿となった。救援金の総額は日本のパートナーズの38万円余を含め、約834万円。

2015年6月支援状況：SAC 里子数30名、奨学生：中学生10名、高校生10名、大学生2名、大学院生1名、神学校生3名、小学校教師給与補助1名

設立三十周年を迎えたクリスチャン パートナーズ

理事 岩崎俊夫

クリスチャン・パートナーズが設立されて 30 年になった。海外の恵まれない子供たちに愛の手を差し伸べるためにクリスチャンの有志を中心に設立されたこの小さな小さな団体が 30 年間活動を継続できたのは、キリストの恵みと、援助を必要としている子供たちに絶えず注がれてきた会員の皆さまの優しいまなざしのゆえではないだろうか。

ともあれ、クリスチャン・パートナーズ設立三十周年を記念する集まりが 6 月 27 日東京神田の学士会館で開かれた。パートナーズはこの 30 年間インドネシア、カリマンタン地方の子供たちの支援に活動の重点をおいてきたこ



参加者全員、故草野理事長の遺影とともに

ともあり、今回の集まりには現地で宣教師として働き、私たちの活動の現地での良きパートナーでもあるアンテオケ宣教会の高橋めぐみ宣教師をゲストとしてお迎えし、現地での援助活動の状況などについてスライドの映像を拝見しながらお話を伺った。高橋先生はこれまで 15 年間西カリマンタンの ATI 神学校の教師を勤める傍らカリマンタン奥地に住む先住民ダヤク族の青少年への宣教と教育支援に献身してこられ、現在次の任期に備え帰国中である。

会場にはパートナーズの設立を推進された故草野計雄前理事長の遺影が飾られ、集まった会員 14 名が高橋先生の話に耳を傾けるとともに、懇親のひと時を持った。高橋先生のお話の内容を要約すると・・・

高橋先生は、まずカリマンタン現地の子供たちが置かれた状況について、開発の遅れから都市部との格差が大きく、道路などインフラが劣悪なことが子供たちの通学の障害になっていることを指摘した。またこうした地域での教師の不足も深刻で、家庭でも教育に対する親の意識が低いことも問題である。これに対する政府やキリスト教団体の教育支援の対応は鈍く、長期間にわたる支援が必要だと言われた。

クリスチャン・パートナーズは高橋先生と連携して、中学生から大学院生までの 26 名に学費を支援している。中高生の多くは奥地にある家庭から通学ができず、高橋先生たちの支援による寮生活などで厳しい生活を強いられながら勉学に励んでいる。こうした子供たちの中から、さらに上級の教育を受けることを望む向学心のある子供たちも出てきており、大学や神学校に進むものへの支援も増えてきている。インドネシアでは中学校までは義務教育だが、現実には僻地では学校に通えない多くの子供たちがいる。また僻地のゆえに教師が定着せず、教育が滞ってしまうため、パートナーズでは小学校教師への給与の支援も行っている。

高橋先生はこうしたパートナーズの支援の現状を説明した中で、中学・高校生の住む寮の働きの重要性を話してくださった。赤道直下に位置し、日本の国土の二倍近い広大なカリマンタン（ボルネオ）島、その中部から南部にかけてのおよそ三分の二がインドネシア領カリマンタンだ。四つの州に分かれ、その西部に位置する西カリマンタン州だけで日本の国土の五分の二を占めるが、インドネシアの中でも開発が遅れた地域で、この広大な地域に学校は

少なく、また奥地は道路も良く整っていないため、子供たちが家庭から通える範囲に中学・高校がない。進学したい子供たちの多くは親元を離れ、どこかにホームステイさせてもらい、家事などを手伝いながら通学している。奥地に住むダヤク族の多くはキリスト教徒だが、イスラム教徒が大多数のこの国では、家を離れた弱い立場の子供たちが、不安からイスラム教に改宗することもしばしばだという。



こうしたことから高橋先生は神学校の教え子たちとともに、子供たちが信仰を守りながら学校に通えるようにと寮を建て、運営している。現在三つの寮で約100名の子供たちが神学校出身者の舎監に見守られ、生活を共にしながら学校に通っている。高橋先生自身も神学校で教える合間を縫

講演される高橋先生と参加

会員の皆さん
って、往復に何日もかかる遠隔地の寮を訪れ、子供たちの生活に目を配り、信仰の指導に当たっている。子供たちは実家から持参した米で自炊生活をしているが副食が乏しく、生活は厳しい。しかし高橋先生は、子供たちが生活を通して全人格的に指導され、変えられていく場として寮は重要な働きをしていると言われる。キリストに出会い、従う者として人格的に成長し、地域の「世の光、地の塩」となることが寮に子供を収容することのビジョンなのだ。実際にここを巣立った子供たちの中にはそれぞれの出身の村の初めての高校卒業生として大学に進んだ者が何人もおり、出身の村の小学校教師になろうとするなど地域の発展に献身しようとしている。

クリスチャン パートナーズはカリマンタンで、二つの支援活動を行っている。一つは設立当初からの里親支援（SAC）で、シンガポールのパートナーズと協力して、子どもたちが小学校に通えるように里親として支援する活動だ。そしてもうひとつが高橋先生と連携して行っている西カリマンタン奥地の青少年への支援だ。これは開発の遅れたこの地域の将来を見据え、その発展に役立つ次世代の人材育成への支援ともいえる。高橋先生は、それには福音と共にある社会的な支援が必要だと言われる。苦しい生活の中で懸命に頑張る子供たちを励まし、祈りと愛を届ける援助、一人の子どもを長期的に支援する顔の見える支援だ。高橋先生との連携によるパートナーズの支援活動は、その報告にあるようにささやかな実りをもたらしつつある。だが援助を必要とする子供たちはまだ多く、その将来をも考えた長期的な援助の必要を考えれば、なすべきことは無限にある。パートナーズ三十周年を記念する高橋先生の講演は、私たちの援助の意味を深く考えさせてくれた。

~~~~~  
【理事会報告】第186回理事会は2015年4月6日（月）一ツ橋学会館で開催。2015年01, 02, 03月度会計報告承認。SAC関係の連絡改善。パートナーズインターナショナルの正規会員辞退により、国際名称をPIJからCPJに変更。ガーナへの独自送金方法調査。30周年記念行事の準備。  
第187回理事会は2015年7月14日（火）一ツ橋学会館で開催。2015年04, 05, 06月度会計報告承認。2014年度決算報告了承。奈須監事より監査報告受理。2015年度予算案協議、承認。ガーナ支援金10万送金予定。30周年記念行事反省など。第189回理事会は2015年9月15日（火）一ツ橋学会館で開催予定。  
~~~~~

〈編集後記〉三十周年記念号をお読みいただき、私たちの道程を回想するよい機会であったことと思います。これからの一歩を踏み出す時、皆様の変わらぬご支援をお願い申し上げます。鳥海百合子